



第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー12

高齢者糖尿病の治療戦略

2018年9月24日(月)12:20～13:20 第9会場(水戸三の丸ホテル・ステラ)

座長

千葉大学大学院看護学研究科・看護学部
先端実践看護学講座 高度実践看護学教育研究分野

教授 **中村 伸枝 先生**

演者

北海道大学大学院医学研究院 糖尿病・肥満病態治療学分野

特任教授 **三好 秀明 先生**

※本セミナーは整理券制です。

5月16日より学術集会ホームページにて事前登録の受付も予定しております。

詳しくは学術集会ホームページをご参照ください。

<http://jaden23.umin.jp/index.html>

高齢者糖尿病の治療戦略

北海道大学大学院医学研究院 糖尿病・肥満病態治療学分野
特任教授 **三好 秀明** 先生

超高齢社会を迎え、60歳以上の日本人の3人に1人は糖尿病もしくは予備軍といった状況にある。細小血管障害・大血管障害といった合併症のほかに、糖尿病患者に比較的多い癌、認知症、骨粗鬆症といった疾患は、とくに高齢者では健康寿命やQOLに大きく影響することになる。そのようなリスクの回避は重要な課題であるが、糖尿病治療・管理にあたっては高齢者特有の特徴を理解した上で治療を行う必要がある。

これらのリスク低下に血糖コントロールは大事ではあるが、高齢糖尿病患者を対象に血糖コントロールの血管合併症の発症・進展への影響を検討した本邦のランダム化比較試験J-EDIT研究では、必ずしも血糖が低いほどこれらの合併疾患が少ない訳ではないことが示された。高齢者では若年者と異なり低血糖症状が現れにくく重症化しやすいうえに、食事摂取量が不安定になりがちで、SU薬やインスリン治療中の場合には低血糖をきたしやすい点にとくに注意が必要である。高齢者糖尿病の治療では、一人ひとりの日常生活動作(ADL)の自立度と認知機能に応じて目標を個別に設定することが重視されており、我が国でも高齢者糖尿病治療指針2016が示されるに至った。

最近では血糖降下作用が大きい割に低血糖リスクが少ない薬物を選択できる機会が増えてきており、インスリン治療においてもSMBGに加えて、CGMやFGMを利用することで、より安全な処方模索されるようになってきた。本ランチョンセミナーでは低血糖リスクを意識した高齢者に好ましい治療や対策について概説したい。

自己検査用グルコース測定器

GLUCOCARD

PlusCare

グルコカード プラスケア

GT-1840

医療機器 承認番号 229AABZX00030000

分類 クラスIII(高度管理医療機器)

特定保守管理医療機器

変わらない簡単操作

見やすい画面表示を追求

音声で測定操作をアシスト



単回使用自動ランセット

naturalet
petit

ナチュラレット プチ

医療機器 認証番号 228AFBZX00013

分類 クラスII(管理医療機器)

2ステップのかんたん操作

穿刺器具の先端が筒状になっているので、
穿刺がしやすい設計です。

